

地方創生交付金事業・地方創生拠点整備交付金・認定中の地域再生計画 検証結果(令和3年度分)

	交付対象事業の名称 地域再生計画の名称	事業概要	事業費 (単位:千円)	重要業績評価指標 (KPI)				今後の方針	外部有識者の総評
				指標名	単位	目標値	実績値		
地方創生推進交付金									
1	人を呼び込むマグネットシ ティ構想(2年目)	◆目的 ○二地域就労促進事業 都市部の企業等との関係性を保ちながら、本市への社員の就 労等によりもたらされる都市部の情報や高度なノウハウや知 識、感性などにより、新たな仕事や生業を創出し、中小企業の 振興及び雇用創出を図る。 ○未来人材育成・就職促進事業 若者のUIJターンに向けた情報発信や就職面談会による就職 支援、また、スキルアップできる環境を整備し、起業・創業につな がる人材を育成することにより、産業振興及び地域活性化を図 る。 ◆内容 ○二地域就労協定に係るプロジェクトの創出・継続・自立支援 ・京都芸術大学との旅するキャンパス創造事業による学びの場 の創出。 ・株ANA総合研究所との地域活性化に係る連携 ○未来人材育成・就職促進事業 【就職情報の発信】 ・天草市内で働く魅力のパンフレットの作成(年1回・地元高校生 の編集チームによる作成 ・UIJターン就職促進動画の作成、配信 【UIJターン就職面談会の開催】 ・あまくさ合同就職面談会in熊本市での開催 ・企業魅力研究会in崇城大、学園大 【スキルアップ研修会の開催】 ・Webデザイン、クラウドワーキング、グラフィックデザイン、動画 クリエイター、オンラインシェアワーカー育成講座の開催 【デザイン経営導入促進事業】 ・デザイン経営導入シンポジウムを開催 ・デザインプロデューサー道場を開催	17,594千円 うち交付金充当額 8,797千円	移住・定住促進施策を 通じた移住者数	人	90	72	◆事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ○二地域就労促進事業 京都芸術大学との取り組みについては、大学等との連携 調整事業の中で、継続して取り組んでいく。 株ANA総合研究所との地域活性化に係る連携について は、これまで大きな成果をあげてきたが、コロナ禍の中、計 画的な事業の進捗が困難となったため、中止することした。 ○未来人材育成・就職促進事業 今後も、UIJターン就職支援については、熊本市での合同 企業説明会の継続実施、県内大学・専門学校と提携した学 内での天草就職促進イベントの実施、地元高校生を対象と した企業ガイダンス等を実施し、地元就職を促進する。 デジタルスキル研修については、実施した講座の見直し、 改良を行い、仕事に繋がるデジタル人材の育成に力を入れ る。また、早い段階からデジタル産業に興味を持ち、天草に 残って働きたいという若者を育成するため、学生のデジタル 体験キャンプ等も行う。さらに、民間企業と連携し、常にデ ジタル技術を学ぶことができる人材育成拠点を整備し、人 材育成を強化することで、IT・コンテンツ系の企業誘致に繋 げ、魅力ある雇用の場の創出を図る。 デザイン経営事業については、若い人に投資することで、 将来的に他の層にも恩恵がある事業であり、過疎の進む本 市において、学びの機会を多く設けることこそ必要であり、 昨年度の課題を改善するなどアップデートを図りながら継続 実施する。	◆「効果的であった」と評価 ・大学が無い天草にとって、学びの場の創出に繋がる取り 組みを行う機会をもっと増やす必要があると思われる。 ・今後も事業の工夫と継続をしてほしい。 ・若い人へのITスキルアップ研修は、将来的に効果があると 思われる。
2	多文化共生「天草版サラダ・ ボウル社会」の構築事業(2 年目)	◆目的 市民ボランティア等を通じて市民と外国人との交流機会を拡大 し、外国人のニーズを図るとともに、多文化共生の意識啓発を 図りながら、天草に住みやすい環境の整備を行う。 ◆内容 【国際交流推進員の配置】 【多文化共生事業の実施】 ・日本語教室等の実施 ・外国人総合相談窓口の実施	4,462千円 うち交付金充当額 2,216千円	外国人居住者の満足し ている割合	%	65.6	73.0	◆特に見直しをせず事業を継続する ・現在行っている「日本語教室」や「外国人総合相談窓口」 については、徐々に認知度も上昇しており、外国人居住者 の満足度に繋がっているため継続して行う。 ・国際交流推進員による講座は市民にも好評であるため、 今後も外国人からの視点をふまえて啓発活動を実施し、多 文化共生に関する意識啓発や市民が外国人と交流しやすい 環境づくりを推進する。現在本渡地域での講座が多いため 、広い範囲で講座を実施できるように、各支所へ国際交 流推進員の活動を周知する。	◆「効果的であった」と評価 ・今後とも外国人の増加が見込まれることから、事業を継続 してほしい。 ・ロシアの軍事進攻の長期化が続くことが予想され、ウクラ イナからの避難民に対する救援も取り組んでほしい。 ・外国人だけでなく、障がいの者・高齢者・児童等も併せて、共 生社会の構築を行ってほしい。
地方創生拠点整備交付金									
3	天草市スポーツコミッション センター(仮称)整備事業(1 年目)	◆目的 天草市スポーツ拠点施設整備基本計画に基づき、市民一人ひ とりが日常的にスポーツへの関心を高め、健康づくりや競技力 の向上を図るとともに、スポーツを通じた新たな交流を創出す る。 ◆内容 【天草市スポーツコミッションセンター(仮称)新築】 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造2階建 延床面積 2,448.81㎡ 施設概要 ・会議室兼審判室、トレーニング室、ラウンジ、多目的室、男女 更衣室、事務室、2階観覧席(一般539席、車いす用14席)、エレ ベーター設置、倉庫、トイレ等	総事業費 770,253千円 交付対象事業費 39,210千円 うち交付金充当額 19,605千円	スポーツコミッションセ ンターの利用者数(陸 上競技場含む)	人	0	0	◆特に見直しをせず事業を継続する 本体建物や電気・機械設備工事については、大きな遅延 もなく工程通りに進んでおり、全体の進捗状況を把握しながら 監理を行い、令和5年1月に完成させる。また、施設利用 に係る条例の制定、施設管理の体制について検討を行い、 令和5年度からの管理・運営に備える。 そして、施設の供用開始と同時に市スポーツコミッションが スポーツコミッションセンター内に事務局を置き活動の拠点 となることから、市民向けのモデル事業の実施、大会・合宿 誘致やワンストップ窓口の設置、情報の発信など、関係機 関と連携を図りながら令和5年度からの本格的な利活用に 向けて取り組んでいく。	◆「効果的であった」と評価 ・スポーツコミッションセンターには、市民の大きな期待が寄 せられている。日本陸連公認コースの設計や将来には天草 市でスポーツの世界大会などが開催可能な施設設備とな り、天草市の子どもから成人まで楽しめるようになることを 望む。 ・大きな大会が催される事になると一流選手を見る機会が 増え、特に若い世代にとっては学べる機会が増える。また、 大会に参加するため島外から訪れ、交流人口も増加が期待 される。

地方創生交付金事業・地方創生拠点整備交付金・認定中の地域再生計画 検証結果(令和3年度分)

	交付対象事業の名称 地域再生計画の名称	事業概要	事業費 (単位:千円)	重要業績評価指標 (KPI)				今後の方針	外部有識者の総評
				指標名	単位	目標値	実績値		
認定中の地域再生計画									
4	天草市イルカセンター(仮称)の整備による天草市の観光振興と地域活性化(4年目)	◆目的 五和町通詞島周辺海域には野生のイルカが生息し、平成5年にイルカウォッチングを開始し、天草を代表する体験型観光として、多くの観光客が訪れているが、近隣に観光施設等がないため、経済波及効果が発揮できていない。地元二江地区の地域活性化はもとより天草市の観光振興を実現するために、「天草市イルカセンター」を整備する。 ◆内容 自主事業 ・出荷協議会によるマルシェ ・年末年始即売会 道の駅共通事業 ・道の駅弁販売 ・リアル宝探しイベント ・チェアリングキャンペーン	22,732千円	当センター窓口を利用したイルカウォッチング客数 施設利用者数 施設売上高	人 人 万円	110,000 125,000 122,500	35,743 104,315 122,129	◆特に見直しをせず事業を継続する 利用者・売上高については、新型コロナウイルス感染症の影響が今後も続く可能性があるため、指定管理者である天草漁業協同組合と経営改善に向けた協議を継続していく必要がある。 また、令和3年3月に道の駅宮地岳かかしの里が開業したことにより、市内にバランスよく5つの道の駅が配置され、島内周遊性が高まったことから、今後も市外向けの各種キャンペーン及びSNSやメディアを活用した情報発信を積極的に行い、島内周遊性の向上を図る。 一方で、市内住民を対象に、マイクロツーリズムの浸透を図るためラジオなどを活用したインナープロモーションも継続して実施する。	◆「効果的であった」と評価 ・利用したことがあるが、また行きたいとならないのが一島民としての意見。ゆっくり滞在できるための仕組みを作ると良い。食事ができるところが、食堂のような雰囲気ですっきりくつろげるような空間ではなく、長時間滞在しようとはならない雰囲気かと感じた。課題は多くあるように感じたので、見直しが必要かと思う。 ・今後とも天草市イルカセンターの紹介活動と集客取組をしてほしい。 ・コロナ禍の影響で来店客数が大きく落ち込んだが、コロナ収束後は、天草の観光拠点となることは間違いないと思う。 ・開設当初は、接客の対応や施設周りのゴミなど問題もあったようだが、今は観光拠点としての受け入れも良くなっている。また、レストランのメニュー内容も観光客に取っては魅力的なようだ。コロナ禍収束後の施設利用者(観光客増加)や売上増加に期待する。
5	宮地岳観光交流施設の整備による天草市の観光振興と地域活性化(3年目)	◆目的 過疎化が進み、地域力の低下が課題となっている宮地岳地区において、閉校した小学校校舎を利用し「道の駅」機能を付した観光拠点を整備することにより、観光客との交流による地域活性化を図るとともに、天草下島の中心部に位置する地勢的利点を活かし、天草市の観光情報を提供することにより島内周遊を促し、天草地域全体への波及効果を高める。 ◆内容 自主事業 ・かかし祭り ・そば打ち体験 ・能面展示 ・新米フェスタ ・紅葉狩りツアー ・ちゃんぽん祭り ・イルミネーション 道の駅共通事業 ・道の駅弁販売 ・リアル宝探しイベント ・チェアリングキャンペーン	5,466千円	施設利用者数 施設売上高	人 万円	510,000 6,120	37,857 5,377	◆特に見直しをせず事業を継続する 令和3年度に「道の駅」を拠点として、周辺の観光スポットへの周遊を目的とした「リアル宝探し」イベントを実施し、好評であったことから、引き続き、天草市内の「道の駅」と連動したキャンペーン等の実施を進めるとともに、「道の駅」宮地岳かかしの里においてもSNSやメディアを活用した情報発信を積極的に行うことで観光客の誘客を図り、周辺地域への波及効果の浸透を図る。 物産やレストランについても来訪者に地域の特色を感じていただけるよう、夏蕎麦や地域ならではの農産物、加工品など地域の特色を生かした商品販売に努め、更なる魅力を構築していく。また、食事及び地元産品販売とそば打ち体験などの体験プログラムをセットにした商品を開発し、集客や売上向上を図る。	◆「効果的であった」と評価 ・KPIの未達が本当にコロナ禍による影響なのかは、更なる検証が必要ではないか。 ・案山子による観光振興には独自性が高い。宮地岳観光交流施設が、天草市の道の駅中核地点としての地の利を生かす取組の工夫と継続を望む。 ・コロナ禍による観光客減少による来店客減少は仕方ないと思う。指定管理者は、元は商売の素人ながら接客を学ばれ、少しづつ地元にも愛される魅力ある道の駅と変わっているように感じる。この施設が出来て一番良かったのは、過疎化が進んでいる宮地岳に活気が戻ってきたこと。
6	天草市まち・ひと・しごと創生推進計画(企業版ふるさと納税関係)(2年目)	◆目的・内容 天草市人口ビジョンで展望した人口減少に伴う課題を解決するために、天草市第2期総合戦略に掲げた4つの基本目標を達成するため、企業版ふるさと納税を活用するもの。	寄附受領額 2,000千円 うち充当額 恐竜の島博物館整備事業 2,000千円	若い世代の転出超過(累計) 就業人口数の確保 都市部から本市への転入(累計) 25～44歳女性の就業率 子育てしやすい地域と感じる市民の割合 健康に暮らしていると感じる市民の割合 安心して暮らせていると感じる市民の割合	人 人 人 % % % %	1,172 29,346 400 81.3 69.5 87.5 93.0	2,212 (参考値) 35,076 (参考値) - - - -	◆事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) 自治体が営業活動を行う余力や民間企業との繋がりが無いため、都市部の企業との繋がりのある金融機関にコンサルティング業務を委託して寄付金の獲得を目指すこととした。 <実績値について> ・充当事業に係る分のみ記載。 ・今回は令和2年国勢調査値を利用して算出した参考値を掲載した。	◆「効果的であった」と評価 ・今後ともこの事業の啓発活動に尽力し、企業からの寄付増大に努めてほしい。